

“ふじのくに” 士民協働事業仕分け結果（事業別個表）

事業番号	14	事業名	全国総合体育大会等派遣費助成
------	----	-----	----------------

1 基本情報

実施日／班名	10月15日 第3班	時間	14:25 ~ 15:30
担当課名	教育委員会 学校教育課	事業費	22,571 千円

2 判定結果

仕分け結果		県民評価者判定内訳(人)				
県実施 (一部見直し)	判定区別	行政関与不要	0			
		行政関与必要	⑳	国・市町実施	0	
	県実施			㉑	抜本見直し	7
					一部見直し	⑪
	現行・拡充	2				
判定理由別	仕分け結果と同一区分を判定した県民評価者の主な判定理由内訳(人、複数回答有)					
	・サービス受給者の自己負担について見直すべき				5	
	・サービスの水準や対象者を見直すべき				4	
	・事業効果の把握・検証方法や目標の設定方法を見直すべき				4	
	・県の役割(市町、関係団体、県民等との役割分担)を見直すべき				3	

3 具体的な見直し・改善策又はその他意見

<p><県実施(抜本見直し)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 所得によって補助率を変える、補助の対象大会も再検討の必要があると思う。 ・ 中学校の部活で、保護者の負担が重く道具が揃えられないので入れない子供がいた。また、割と負担の少ない陸上部でも、スパイクが買えないという話を聞いた。全国大会の補助の前に、全ての子どもが入りたい部活に入れるよう、学校に器具や道具を揃えてあげられたらいいと思う。 ・ 55年間という長きに渡って継続しているので、細かい部分がなあなあになっているのでは。 ・ 学生に金銭的負担があるのはおかしい。 ・ 大会に出る部だけ支援するのは偏りが出る。やりたくてもやれない、大会に出たくても出られないというケースも出てくるのではないかなと思うので、これには行政の支援をもっと手厚くしてほしい。 ・ 自己負担の公平性を厳しくしてほしい。 ・ 県の代表として参加する生徒への旅費等の支援によって文化・スポーツの活性化を促すためには、補助の条件を明らかにし、出場生徒の個人負担が過多にならない、偏りがあまりないように見直してほしい。それらの条件が県民にわかりやすく公開されなければ、公平性に反する。 ・ 教育委員会の主催する大会のみの補助では、広くスポーツの活性化につながらないのではないかな。一部のスポーツ・文化に限定されているのではないかな。 ・ 生徒の選択するスポーツによって格差があるのはおかしい。保護者負担と収入の関連も配慮すべき。 ・ 平等な補助が求められるものだと考える。また、3つの大会については毎年定額で補助しているというのも気になる。
--

<県実施(一部見直し)>

- ・ 補助する必要があると思う。子どもがインターハイに出場したことがあるが、実際、寄付金を集めることで、父兄たちはとても苦勞したことを思い出した。頑張っで出場権を得たうれしさと現実の費用については、見直していただけるとありがたい。
- ・ 最初から補助金ありきで後援会、OB会、PTA等の補助を考慮していない。
- ・ 愛知県は補助額ゼロで通しているが、どのような方法でやっているのか。
- ・ 一部の運動部への補助ではなく、全国大会参加者を対象とすべき。
- ・ 競技の種類によって自己負担額が異なるのは不公平。
- ・ 県の代表として出るということ、部活動支援のためにも是非県が関与して補助して欲しいが、もう少しかかる経費をはっきりさせて、金銭をあまり気にせず、子どもたちがのびのびと頑張れるように支援して欲しい。
- ・ 収入別とはいわないが、どの部活も補助すべき。(高体連以外の競技も)
- ・ 実際に自己負担がどのくらいかかるのかといった資料が必要。
- ・ 県内生徒に補助はよいが、大会に参加する県外からの特待生に県税を助成するのは疑問。助成金の比率を変えたらどうか。
- ・ 部活動の活性化が目的の事業であるが、スポーツの強い学校への旅費不足の負担のための事業に思える。当該事業の部活動への寄与度がわからない。
- ・ インターハイに出場する生徒への補助の現状のあり方が当たり前であるということに疑問。

<県実施(現行・拡充)>

- ・ 毎年、選手の出場が違うので、大会ごとに補助金を出すのは難しいのではないか。
- ・ 現行どおり県で努力して欲しい。
- ・ 事業を廃止した場合の影響を考えると、全面的に県のバックアップが必要。部活動の意義、位置づけからも県のバックアップは必要。
- ・ 年々子どもたちの身体能力が低下している。部活動の復活を期待する。